

ポスターA-4

ポスター発表(実践)

高校における現代文と日本語の連携
—取り出しから在籍授業につながる指導—

中野みゆき・江野澤裕美(兵庫県立高等学校講師)

加藤恵美子(兵庫県立神戸甲北高等学校臨時講師)

1. 実践の場の特徴

筆者の勤務校は全日制公立高校で平成28年度から始まった「外国人生徒特別選抜入試」モデル校である。

2. 実践の目標

今回の実践は必修科目の1年次の「国語総合」(4単位)及び2年次の「現代文A」(2単位)と「日本語」(各年次2単位)の授業を通して日本語力と国語学習の捉え方や考え方を理解し、読解力、記述力を身に着けることを視野に入れた取り組みである。

3. 具体的な実践の内容とその過程

3-1. 1年次における国語の実践、成果と課題(林)

1年次の「国語総合」はすべて取り出でて、進め方は日本人生徒の2倍の時間をかけてできるだけ日本人と同じ内容(ノートの書き取り、問題演習など)を行うように心がけた。「日本語」の授業で語句プリントを作ってもらい、それを授業内で使用した。

3-2. 1年次における日本語の実践、成果と課題(中野)

1学期は主にN4レベルまでの文法をし、2学期以降は「国語総合」の本文中に出てくる文法を主に導入した。また「国語総合」の本文中に出てくる語彙については事前に各自で調べさせた。

3-3. 2年次における国語の実践、成果と課題(八尾)

2年次の「現代文A」は全体授業への参加し、補助はしていない。但し「日本語」の授業で現代文の内容についての補助、及び教材の提供や進捗確認などは担当者と逐一行っている。

3-4. 2年次における日本語の実践、成果と課題(加藤・江野澤)

「現代文A」の本文、ワーク教材内の語彙、文法について日本語学習の側面からアプローチし、言葉の補充や全体授業では理解できなかった内容などについては背景説明が必要な部分等を補助しながら精読を行った。

4. 結果と考察 国語学習と日本語の連携の必要性

国語学習は日本語学習と異なり、語彙や文法の理解だけでなく日本人の感性、文化、道徳、慣習など多様な背景の理解も必要とする為、連携が国語学習へつながったと思われる。進学にも関係するため、その大切さが今回の取り組みによってより明らかとなった。付記 今回の実践における教科との連携を行ってくださった本校林純平、八尾未来両先生および発表に関して快諾してくださった学校関係者に心より感謝申し上げます。